

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 21 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	臨時地方道整備事業			
担当課係名	建設課	監理係	作成者	武藤義彦
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち		総合計画のページ 31
	基本計画	国道や県道、生活道路の整備		
	主要施策	市道の整備		
予算費目	一般会計	8款 土木費	2項 道路橋りょう費	3目 道路新設改良費
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input type="checkbox"/> 市民サービス <input checked="" type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	地域住民及び通行車両等
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	市道の拡幅改良、舗装等を行い道路の安全と利便性を図る。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	上中川原3号線 道路改良 L=52m W=4.0m 前郷2号線 道路改良 L=140m W=5.0m 月見堂西線 道路改良 L=140m W=4.0m 外

【事務事業の推移】

		項目	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	
効果	活動指標	整備延長	目標	m	3,675	1,676	487
			実績	m	2,940	1,055	336
			達成度	%	80.0%	62.9%	69.0%
	成果指標	整備率	目標	m	3,675	1,676	487
			実績	m	2,940	1,055	336
			達成度	%	80.0%	62.9%	69.0%
投下コスト	項目		総事業費	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	21年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)			98,742	42,012	33,879	
	人件費(B)			2,421	2,378	2,417	
	職員数			0.30	0.30	0.30	
	職員平均人件費			8,071	7,925	8,057	
	(A)+(B) 投下コスト			101,163	44,390	36,296	
	財源内訳	国庫支出金			0	0	0
		県支出金			0	0	0
		地方債			92,200	39,200	31,700
		その他			0	0	0
		一般財源			8,963	5,190	4,596
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)			34,409	42,076	108,024	
	市民1人当たりのコスト(円)			3,218	1,430	1,186	

【事務事業の今までの成果】

大仲島1号線：L=136m 供用開始
 向生保内線：L=370m 舗装完了
 大威徳下線：L=108m 側溝改良完了

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	起債枠の緩和措置
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	要望路線の早期完了が望まれている。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	道路改良要望は非常に多く、今後も事業を継続していく必要がある。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	これらの路線は主要幹線道路、生活・通学道路として重要な路線であり、継続して整備が求められています。

